入善町報

発行所　入善町役場
編集発行　責任者　中田憲政
印刷所・田中印刷所
定価1部5円

町財政事情

再建へ一歩前進

米沢町長より昭和三十二年三月三十一日附で町の財政事情の公表があったのでその大要をお伝えします

本町は、昭和三十一年から地方財政再建促進特別措置法の適用を受け財政再建の途上にあります。幸い町民各位の町財政への深い理解と、町議会の協力により着々と所期の目的が達成されつつありますことは、喜びに堪えないところであります。

昭和三十二年度の予算におきましては、財政再建を第一目的とし、消費的経費の節減を図り、投資的経費については、事業の内容、効果を考慮して重点的に計上しました。また執行に当っては税収入等自己資金の状態を見極め、不急不要の出資の抑制に努めました。その結果一時借入金なしでこの一年度間を過ごすことができました。

財政再建計画については昭和三十一年度において策定されたものでありますが昭和三十二年度になりましてから、実情に副わないものがありましたので、前後六回にわたり計画変更を行いまして、町財政の適正化を図り、一層健全で、円滑な執行がなされるようにしたのであります。

財政再建団体は、あくまでもその計画を誠実に履行する義務があるのであります。そこで、予算の編成もその執行もすべて町財政再建計画に基いてなさねばならないのでありまして、所期の目的達成のため、町民各位の格段の御協力をお願いしたいのであります。

昭和三十二年度の財政の状況については、九月末現在で一億二千二百三十三万二千円であったものが、町税の自然増収、地方交付税の増額等による一般財源の増加、国県支出金、地方債の特定財源の決定により、その後五回にわたり追加または更正により三千二百十六万一千二百円の増額となり、三月末の最終予算額は一億五千四百四十九万三千二百円に達しました。

追加された主なもの

歳入

町税	一一、一四〇、〇〇〇円
地方交付税	六、六四一、〇〇〇
国県支出金	七、六五七、六〇〇
地方債	二、〇〇〇、〇〇〇
その他	四、七一五、六〇〇

歳出

人件費	一、五五三、〇〇〇
物件費その他	一六、九〇五、二〇〇
投資的経費	一四、七五三、〇〇〇
公債費減	九五〇、〇〇〇

予算は、あくまでも健全財政の堅持を主眼としたものであり、財政調整資金五百万円を積立てる等財政再建を第一義としつつも、行政水準の引上げを考慮したものであることは申すまでもありません。

一般財源の大宗をなす町税は、九千二十七万二千円の収入を見込んでおりますが、町民各位の町財政に対する御理解と御協力により税の徴収状況は極めて良好でありまして、所定の収入は確保できると信じております。その他の収入も大体予算どおり収入が期待され収入の増大を図りつつ支出の節減に努め、財政の健全化に格段の努力を傾注している次第であります。

32・31年度一般会計予算比較

歳入　(単位千円)

科目	最終予算額	31年度最終予算額	比較増減
町税	90,272	84,192	6,080
地方交付税	19,241	15,569	3,672
公営企業・財産収入	195	2,934	△ 2,739
分担金・負担金	4,301	1,269	3,032
手数料・使用料	1,711	4,157	△ 2,446
国庫支出金	15,254.3	16,242	△ 987.7
県支出金	13,644.3	14,005	△ 360.7
寄付金	3,686	690	2,996
繰越金	8		8
雑収入	2,180.6	2,111	69.6
町債	4,000	101,500	△97,500
夫役及び現品		980	△ 980
合計	154,493.2	243,649	△89,155.8

歳出　(単位千円)

科目	最終予算額	31年度最終予算額	比較増減
議会費	2,434.8	1,697	737.8
役場費	24,462.3	22,137	2,325.3
消防費	7,433	8,431.9	△ 998.9
土木費	8,639	7,949.8	689.2
教育費	23,986.9	26,738.8	△ 2,751.9
社会労働施設費	17,819.9	15,704.7	2,115.2
保健衛生費	2,367	2,247.6	119.4
産業経済費	24,902	36,774.8	△11,872.8
財産費	6,693.3	3,382.2	3,311.1
統計調査費	216.6	197	19.6
選挙費	744.9	415.5	329.4
公債費	22,843	11,215	11,628
諸支出金	11,940.5	106,747.7	△94,807.2
予備費	10	10	
合計	154,493.2	243,649	△89,155.8

32・31年度特別会計予算比較　(単位千円)

種別	最終予算額	31年度最終予算額	比較増減
国民健康保険事業勘定	42,244.4	37,367.9	4,876.5
直営診療施設勘定	4,599	4,158.5	440.5
簡易水道費	761.8	11,264.3	△10,502.5

昭和32年度町税收納状況調　(単位千円)

税種別	調定済額	収入済額	収入未済額
町民税	33,986.2	31,296.2	2,390
固定資産税	44,591.1	41,712	2,879.1
自転車荷車税	2,214.1	2,124.7	89.4
町たばこ消費税	4,011.2	4,011.2	
電気ガス税	8,152.9	8,152.9	
水利地益税	0.6	0.3	0.3
合計	92,656.1	87,297.3	5,358.8
国民健康保険税	13,863.3	12,477.7	1,385.6

芦崎に冷凍庫

農漁村振興計画の事業として芦崎西端に簡易冷蔵施設が設置された。

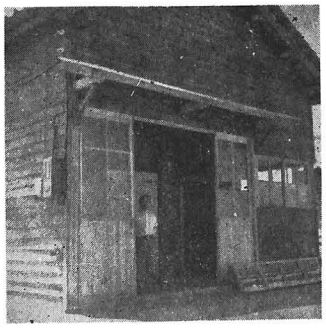
生魚は、その鮮度が生命である。従来貯蔵設備が無かったので、冷凍施設をもっている地方とは太刀打ちが出来ず、みす〳〵商機を逸していたことが、当地方の近海漁業の進展を阻んでいたのであった。

芦崎部落ではかねて冷凍倉庫建設の必要を痛感していたので、飯野地区が振興A地区の指定を受け、三十二年度計画に冷蔵施設がおり込まれたのを幸い、間口三間奥行四間の簡易冷蔵庫を建設したのである。

この施設は、冷凍室六坪準備室、作業室、機械室各二坪計十二坪の小柄なものながら冷凍室は氷点下十五度に冷却し、十二トンの鮮魚を貯蔵し得るのである。

この建設費は約二百万円の予算で、国の補助四十一万円余、起債百二十三万余円、残り百五十四万円個人負担というのであったが諸雑費を合せた総計費は二百四十万円を要した。

この冷凍庫のあることで本町沿岸漁業の復興に大きな期待がもてる。



(写眞は芦崎の冷凍庫)

6月のこよみ

一日(日)計量週間(七日まで)
四日(水)ムシ歯予防デー歯の衛生強調運動(10日まで)
七日(土)計量記念日
十日(火)時の記念日
十一日(水)入梅
十六日(水)観音祭り
二十二日(日)夏至
二十五日(水)救癩(ライ)の日

入善町風土記

…46回…

下山のなりたち　2

坪野長者と下山八幡

竹内慎一郎

紀州の浪士宮本兵衛が下山を開いたというが大同年間(一、一五〇年程前)というと、大化の改新から百五六十年後のことで、この頃非常に多くの浮浪人がいた。江戸時代の浪人は主君を持たぬ武士のことをいったがこの時代の浪人とか浪士とか浮浪、浮逃とかは本籍地を離れて他国を流浪しているものをいった。

浮浪の動機は、重税と負債であるといわれている。皇族、貴族、その他の免税者が多くなり、その分の税を農民に附加された。負債の原因は出挙(すいこ)といって農民に貸付ける制度があり、公出挙(こうすいこ)即ち官稲や官物を借りれば利息は年五割、私出挙即ち私稲私物を借りれば年利十割から十五割を普通とし、必要のないものにまで貸付を強要した国司もいたという。こうして利が利を生んで、家宅資財を失い多くの農民が他国にのがれ、浮浪人となった。

大同年間に陸奥の浪人が一致して「土人の税が狭布で、浪人に広布を課税する差別待遇を撤廃してほしい」と願い出ているから、他国へ行っても決して幸福ではなかったらしい。勇敢なものは辺要地の傭兵となり、悪質なものは群盗となったが、多くは自由境荘園へ流れ込んだという。

下山を開いた宮本兵衛、山崎を開いた水野源内、殿村附近を領した善万四郎兵衛など、みな故郷紀州をこのようにして逃がれ、川伝いにこの未開の奥地にわけ入って、こゝに安住の地を見出だしたものにちがいない。

宮本兵衛の子孫といわれる坪野家に次のような伝説がある。

「昔、坪野に長者が住んでいた。川西の下立の長者と縁組し、嫁の出産の朝拝帰りに下立から下山まで大きな鏡餅を敷き並べ、その上を飛石伝いにして帰った。その罰で一夜の内に沒落してしまった」

之と同じ様な伝説が田又の坂東長者、上田の甚兵衛荻生の箱根新長者にもあって、何れも下立の長者と縁組し、鏡餅の上を嫁が歩いて沒落している。これは「箱根長者伝説」といわれ、全国各地にあるというが、この地を拓いた開拓者達が故郷から持って来たか、諸国流浪の間に他の地方から聞き伝えてきたものであろう。

下山八幡社は境内林が天然記念物に指定されたことをみても古い宮である事が推察できる。何でも七、八百年前、ここに真言宗の一寺院があったが、七百年ほど前に黒部川汎濫の際ハバ上の野中村中村に移転し、後に改宗して淨土真宗本龍寺となったという。

移転前は神仏混淆(こんこう)の寺院であったと伝えられ、移転の際分離して寺あとに八幡社として残ったものであろうと水上神官は語られた。今度県の文化財保護員委会事務局五十嵐清一氏に御神体を鑑定してもらったところ、木彫の仏像で「足利時代の初〜中期の作と思われる。高徳の僧侶か神官の作であろう」という事であった。

八幡社は誉田別尊(ほんだわけのみこと＝応神天皇)を祀る神社である。その神体が仏像とは奇異な感じをうけるが、神と仏は同体と説かれた奈良朝時代以後八幡を釋迦と同一視して八幡大菩薩の称号を贈り、加茂明神を正観音と同体とし、熊野権現などのように神に権現の称を贈ったりしたから、八幡社神の応神天皇を仏の姿であらわしたのもこの思想にもとづくものであろう。

尚、坪野家は代々下山八幡社の鍵取役をつとめたという。

参考文献
国史上の社会問題
入善区域の伝説
大百科事典その他

観音まつり

入善商工会では6月18日の観音祭りの行事を下記のように予定している

商店訪問マラソン　十八日午前　加盟店一巡
青年相撲大会　〃　午後　入善神社境内
中学生野球大会
仝　排球大会
芸妓手踊り町内流し　〃　午後　町内一巡
仮装行列大会
高等学校美術書道展　十七日十八日　中央公民館
小原盆踊大会　〃　晩　花月公園
観音寺演芸会

工場誘致委の強化

古谷委員の談話要約

新米沢町長の施政方針の一つに「工場の誘致」があり、新年度から工場誘致委員会が強化された。

本町財政の強みは、農業を基盤とする産業と、呉羽紡績の工場を持っていることにある。なお一層の発展を望もうとするならば、工業の発達を期すべきことは論をまたない。

幸いに近くに豊富な電力を生産しており、有り余る労働力と加うるに化学工業におあつらえ向きの良質の水を持っていることとて、企業家たちが、本町に食指を動かしているところである。かかる時そのチャンスをつかむ機関である「工場誘致委員会」の活溌な活動と、住民の関心とがこれに向けられ、積極化されたとき、はじめて工場の招致がなされるのである。

入善町工場誘致委員会は昭和三十一年に設置され、吉田チャックの工場、青海電化の工場等の誘致にそれぞれ活動して来たのであるが、いずれも実現を見なかった。吉田チャックの工場については、誘致の可能性が相当濃厚であったが、誘致の下準備が欠けていたこと、敏速な活動に乏しかったためか、折角入善町吉田工業工場誘致協力会を新たに設置して本格的に誘致に乗りだしたものの、その寸前黒部市に先越されてしまい、工場敷地が村椿に決定してしまったのである。

以上のようないきさつに鑑み、新年度からは、誘致委員の数を増員して委員会を強化し、新陣容をもってより活溌なる活動をすることになったのである。この委員会の顔ぶれは次の通りである。（敬称略順序不同）

会長　町長　米沢甚吾
委員　町議長　松田栄松
〃　町議　上島正雄
〃　杉原文次郎
〃　吉沢久雄
〃　伊林順平
県議　柚木栄吉
〃　笹島清
工場長　小林孝雄
古谷常三
木田喜作
浜田勇太郎
佐田正義
笹島太一
稲場杉男
松久

（委員の依嘱は、誘致委条例により町長の推薦した者を議会で承認し、町長が依嘱する）

この新陣容の委員会は、五月八日に開かれたが大要次の申し合せをした。

① 委員会は隔月開催する
② 魚津カーバイト工場の視察

また緊急の場合町長、議長、古谷三氏の協議で活動し臨機対応の機動性をもたせたいという話も出た。

なお、工場誘致の問題は町当局に協力することを約し、その報償として月額五千円を町から同農協に支払う」ことなどで話がまとまった。

続いて椚山・上原・横山三地区農協も青木農協同様話がまとまり、六月一日から連絡事務を農協が引継ぐことになった。

連絡所廃止後の処置

青木・椚山は農協で
上原・横山は農協で

新年度から町の連絡所が廃止となり、連絡所一元の役場庁舎はそれぞれの地区に、精々公共の用に供するという原則のもとに無償で譲渡することになった。

しかし、役場と住民とを結ぶしごと――文書の配布等は極めて大切なしごとである。

そこで、連絡のしごとをどうして行うかについて種々研究の結果各地区農業協同組合の協力を願うことになり、折衝を重ねた。

まず、青木地区農協は率先これに応じ、「従来の連絡事務は一切農協が引継ぎ

一方有線放送の全町普及による一本化、部落電話の設置奨励等による広報、連絡の方法も研究されているほか、たやすく各地区との連絡がとれるよう新規に乗用自動車を九十五万円で買い入れ、支障のおこらないよう周到な用意がなされている。

↑購入した乗用車

◇連絡用に自動車購入

深刻な漁業問題

中田記

◇本町の住民構成◇

入善町の住民構成は、総世帯数五、一四六であるが大約農業六・五、漁業（海岸聚落）一・八、商業その他一・七の割合と見るべきであろう。

そのうち、海岸聚落世帯数は、横山、八幡、吉原、芦崎など合せて約二〇〇で、大昔から現代に至るまで漁業を正業として来たのである。なお、それに、半農半漁の形をとって来たと思われる春日、神子沢、五十里などを加算すると、海によって生計を営んで来たと見られる総世帯数は千戸に近いのであって、全町世帯数の約二割に相当する。

◇漁師の現況◇

昔は、「さかな」が湧いてくると海の色が変ったものだが、今では、そんなことが滅多にない。

漁労方法の進歩に伴う魚族の濫獲や稚魚の濫獲で、「さかな」が減ったことは事実である。そして、だんだん沿岸漁業が引合わなくなり、止むなく大正年代から北海道・樺太・千島方面へ遠征することになった。そのころ漁師では夏後家という新語が生まれたほどだった。

然るに終戦後は、樺太・千島を失い、現在ではオホツク海から締め出され、漁獲制限を強いられるに至って、唯一の生命線である遠洋漁業も不振となり、零細農業などに転向してわずかに口に糊する状況である。

◇魚はいるが!?◇

本当に「さかな」が居ないのかというと、そうではない。魚は減ったといっても、依然として本町沖合は生地や魚津以上の魚場である。魚は潮流に乗って、佐渡方面から直江津沖、横山沖を通り、滑川沖から氷見だん沿岸漁業が引合わなくなり、止むなく大正年代から北海道・樺太・千島方面へ遠征することになった。そのころ漁師では夏後家という新語が生まれたほどだった。

然るに終戦後は、樺太・千島を失い、現在ではオホツク海から締め出され、漁獲制限を強いられるに至って、全町世帯数の約二割に相当する。

◇漁師の現況◇

昔は、「さかな」が湧いてくると海の色が変ったものだが、今では、そんなことが滅多にない。

漁労方法の進歩に伴う魚族の濫獲や稚魚の濫獲で、「さかな」が減ったことは事実である。そして、だんだん沿岸漁業が引合わなくなり、止むなく大正年代から北海道・樺太・千島方面へ遠征することになった。そのころ漁師では夏後家という新語が生まれたほどだった。

然るに終戦後は、樺太・千島を失い、現在ではオホツク海から締め出され、漁獲制限を強いられるに至って、全町世帯数の約二割に相当する。

◇魚はいるが!?◇

本当に「さかな」が居ないのかというと、そうではない。魚は減ったといっても、依然として本町沖合は生地や魚津以上の魚場である。魚は潮流に乗って、佐渡方面から直江津沖、横山沖を通り、滑川沖から氷見だん沿岸漁業が引合わなくなり、止むなく大正年代から北海道・樺太・千島方面へ遠征することになった。そのころ漁師では夏後家という新語が生まれたほどだった。

然るに終戦後は、樺太・千島を失い、現在ではオホツク海から締め出され、漁獲制限を強いられるに至って、全町世帯数の約二割に相当する。

◇魚はいるが!?◇

本当に「さかな」が居ないのかというと、そうではない。魚は減ったといっても、依然として本町沖合は生地や魚津以上の魚場である。魚は潮流に乗って、佐渡方面から直江津沖、横山沖を通り、滑川沖から氷見だん沿岸漁業が引合わなくなり、止むなく大正年代から北海道・樺太・千島方面へ遠征することになった。そのころ漁師では夏後家という新語が生まれたほどだった。

然るに終戦後は、樺太・千島を失い、現在ではオホツク海から締め出され、漁獲制限を強いられるに至って、全町世帯数の約二割に相当する。

◇魚はいるが!?◇

本当に「さかな」が居ないのかというと、そうではない。魚は減ったといっても、依然として本町沖合は生地や魚津以上の魚場である。魚は潮流に乗って、佐渡方面から直江津沖、横山沖を通り、滑川沖から氷見だん沿岸漁業が引合わなくなり、止むなく大正年代から北海道・樺太・千島方面へ遠征することになった。そのころ漁師では夏後家という新語が生まれたほどだった。

然るに終戦後は、樺太・千島を失い、現在ではオホツク海から締め出され、漁獲制限を強いられるに至って、全町世帯数の約二割に相当する。

◇魚はいるが!?◇

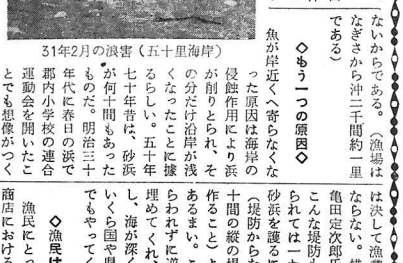
本当に「さかな」が居ないのかというと、そうではない。魚は減ったといっても、依然として本町沖合は生地や魚津以上の魚場である。魚は潮流に乗って、佐渡方面から直江津沖、横山沖を通り、滑川沖から氷見だん沿岸漁業が引合わなくなり、止むなく大正年代から北海道・樺太・千島方面へ遠征することになった。そのころ漁師では夏後家という新語が生まれたほどだった。

然るに終戦後は、樺太・千島を失い、現在ではオホツク海から締め出され、漁獲制限を強いられるに至って、全町世帯数の約二割に相当する。

◇魚はいるが!?◇

本当に「さかな」が居ないのかというと、そうではない。魚は減ったといっても、依然として本町沖合は生地や魚津以上の魚場である。魚は潮流に乗って、佐渡方面から直江津沖、横山沖を通り、滑川沖から氷見だん沿岸漁業が引合わなくなり、止むなく大正年代から北海道・樺太・千島方面へ遠征することになった。そのころ漁師では夏後家という新語が生まれたほどだった。

然るに終戦後は、樺太・千島を失い、現在ではオホツク海から締め出され、漁獲制限を強いられるに至って、全町世帯数の約二割に相当する。



31年2月の浪害（五十里海岸）

◇もう一つの原因◇

魚が岸近くへ寄らなくなった原因は海岸の侵蝕作用により浜が削りとられ、その分だけ沿岸が浅くなったことに據るらしい。五十年七十年昔は、砂浜が何十間もあったのだ。明治三十年代に春日の浜で郡内小学校の連合運動会を開いたことでも想像がつくと思う。学説では日本海側は年々沈下し、毎年三尺喰いこまれるそうだ。現在の浜は二十間前後のようだ。

なるほど護岸はみごとに築かれた。しかし、これは決して漁業のプラスにはならない。横山漁業組合長亀田定次郎氏の意見では、こんな堤防も根元の砂が掘られては一たまりもない。砂浜を護るには「波きり」（堤防からなぎさまで約二十間の縦の堤防又は木柵を作ること）より外に方法はあるまい。これだと波にさからわれず逆にそれを砂で埋めてくれ、砂浜が成長し、海が深くなる。然るにいくら国や県にこれを頼んでもやってくれない……。

◇漁民は気の毒だ◇

漁民にとっては漁場は、商店における店先であり、農家における田んぼに相当する。運命とはいえ、漁民の生活の根拠が毎年削り取られ、荒されるのだ。祖先伝来のやしき跡が今は海の底にある者もあり、元、田畑であったものが、今は砂浜や海底となり、依然民有地として地籍のあるものもある。これに対する社会の同情もなく、国家の補償もない。精々免租地の取扱いを受けているに過ぎない。

殊に遺憾に堪えぬことは大浪にさらわれた古い護岸堤のセメントのブロックが海底に座り、地曳網が曳けなくなったことだ。この邪魔物は当然国家が除くべきものなのだ。然るに、これを当局に陳情しても何等聞きいれてくれない。しびれをきらした町産業課では県に交渉の上、昭和三十一年五月県水産試験場の二上九（二十一ン）を借り受け、潜水夫を雇って吉原浦及び横山浦の掃海をしたというが始末である。

県の政治も、国の政治ももっと漁民に眼を注ぐべきだ。伝来のやしき跡が今は海の底にある者もあり、元、田畑であったものが、今は砂浜や海底となり、依然民有地として地籍のあるものもある。これに対する社会の同情もなく、国家の補償もない。精々免租地の取扱いを受けているに過ぎない。

殊に遺憾に堪えぬことは大浪にさらわれた古い護岸堤のセメントのブロックが海底に座り、地曳網が曳けなくなったことだ。この邪魔物は当然国家が除くべきものなのだ。然るに、これを当局に陳情しても何等聞きいれてくれない。しびれをきらした町産業課では県に交渉の上、昭和三十一年五月県水産試験場の二上九（二十一ン）を借り受け、潜水夫を雇って吉原浦及び横山浦の掃海をしたというが始末である。

県の政治も、国の政治ももっと漁民に眼を注ぐべきだ。

◇漁港の構築◇

目下農漁村振興計画の事業として漁港構築の話が進められていることは、よろこばしい限りだ。漁港構築の話は、今から八、九年前なら一時に開設されたであろうが、依然民有地として地籍のあるものもある。これに対する社会の同情もなく、国家の補償もない。精々免租地の取扱いを受けているに過ぎない。

殊に遺憾に堪えぬことは大浪にさらわれた古い護岸堤のセメントのブロックが海底に座り、地曳網が曳けなくなったことだ。この邪魔物は当然国家が除くべきものなのだ。然るに、これを当局に陳情しても何等聞きいれてくれない。しびれをきらした町産業課では県に交渉の上、昭和三十一年五月県水産試験場の二上九（二十一ン）を借り受け、潜水夫を雇って吉原浦及び横山浦の掃海をしたというが始末である。

県の政治も、国の政治ももっと漁民に眼を注ぐべきだ。

町議会のもよう

第六回町議会臨時議会は六月六日午後一時に開設され、提出された次の八議案の審議議決を行った。

案　件

① 専決事項承認の件
② 昭和三十三年度歳入歳出予算
③ 上青中学校校舎増築工事の件
④ 日本エタニットパイプ株式会社よりの売掛代金請求訴訟の件
⑤ 連帯保障債務履行の訴提起の件
⑥ 訴訟代理人の選任の件
⑦ 選挙管理委員の選挙
⑧ 入善町議会事務局設置条例の制定の件

①専決事項の主なものは愛本堰堤災害復旧事業費地元負担金二百万円の支出の件、町有客貨兼用自動車を貨物自動車に改装・改装費二十八万三千円）の件などの更正予算は、税法の改正に伴う歳入予算のみ。③は、以前から校舎の不足を告げていた上青中学校に二教室（二階建）の増築をなすもの ④⑤⑥は、東部簡易水道にからんだ町名義の債務請求訴訟の問題及びそれに連関した問題である。⑦は公職選挙法改正により選挙管理委員が従来の三名が四名になったので、一名増員の選挙を行った。

当選　寺崎清作

⑧は、地方自治法の改正で、町村でも市と同様議会事務局を条例で設置することができることになったので、本町にもこれを設ける条例を議決した。

所得税の減額承認申請

減らせる予定納税額

六月ともなれば一年の半分が経過したわけだから、今年の所得税の大体のメドがつく。改めて商売に一夫つけねばなるまいが、税金の算段もつけておきたい頃である。さしあたって七月は所得税の予定納税をする時期であり、六月の十五日までには税務署から予定納税額の通知書が届く。この税額が納得できればよいが納税者自身が六月一日までの状況で見積った今年の年税額より多いことがある。

定申告の時には精算されるとはいいながら、前もって会分を納めることは幾いことで、こうした不利益をなくするために「減額承認申請」の制度がある。

① 予定納税額の通知書には年税額に相当する予定納税基準額と、その1/3に当る一期、二期分の予定納税額の通知書が届く。税務署では、これを去年の所得税額に基いて計算するので、事情で、今年の所得はガタ落ちだというような人はどうしたらよいか。いずれ確定申告の時には精算されるから心配はない。

② 申請が承認されるのは次のような場合で、理由がはっきりしていることが大切である。

イ 廃業、休業、転業、失業等で大巾に収入が減る場合

ロ 風水害、火災、盗難などで商品や家財に大きな損害を受けた場合

ハ 扶養家族の数がふえたとか、新たに不具者、老年者、寡婦、勤労学控除が受けられるようになったとか、または、営業不振などの理由のために、今年の年税額が去年の年税額の七割以下になると見込まれる場合

（魚津税務署）

こんな場合は、その証拠となる書類を添えて、税務署へ減額承認申請をすることができる。申請の期限は六月三十日までだが、予定納税額の通知書が六月十五日以後に届いた時は、届いた日の翌日から十五日以内であればよい。

減額申請書を受けた税務署では、早速その内容を調査して、承認するか却下するか、いずれの場合も書面で回答することになっている。

② 申請が承認されるのは次のような場合で、理由がはっきりしていることが大切である。

イ 廃業、休業、転業、失業等で大巾に収入が減る場合

ロ 風水害、火災、盗難などで商品や家財に大きな損害を受けた場合

ハ 扶養家族の数がふえたとか、新たに不具者、老年者、寡婦、勤労学控除が受けられるようになったとか、または、営業不振などの理由のために、今年の年税額が去年の年税額の七割以下になると見込まれる場合

（魚津税務署）

土地・家屋の平均

指示価額あがる

昭和三十二年度の土地・家屋に対する県の指示価格が上ったため、本年度の土地の評価額も上りました。

土地の指示価額比較

	三十年度	三十一年度
▲宅地（一歩）	二六七円	二七七円
上昇率	三・七四％	
▲田（一反）	二六、八一五	二七、八一五
上昇率	四・五〇％	
▲畑（一反）	一八、〇七二	一八、六七二
上昇率	四・七八％	
▲山林（一反）	八、六三三	九、〇三二
上昇率	四・六三％	
▲原野（一反）	二、六七二	二、七七二
上昇率	四・二五％	

右の指示価額により倍数を求め、各土地の賃貸価額に乗じたものが課税標準価額となります。本年度は固定資産税（土地の分）が上昇率分だけふえるわけです。

家屋は、わずかの上昇であったため据置きとなりました。

四石取への一工夫

おか苗代が有望？

小堀吉松氏の農法

稲作技術の歩み

稲作技術の進歩の道程をふりかえってみると、日露戦争と大東亜戦争とで二大時期を劃しているように思う。短冊苗代・井条植・推肥などが奨励され、一般化したのは、日露戦争直後のことで、神武以来の農法に一大変革を来した。

また大東亜戦争直後では、新優良品種の育成・新農薬の導入・育苗技術の進歩・保温折衷苗代・機械化などでこれまたくっきりと一時代を劃して農業技術の黄金時代を現出している。

小堀さん

苗代の傾向

入善町に保温折衷苗代が初めて試みられたのは昭和二十四年で、入膳の竹島太三郎さんが農業改良普及事務所の指導のもとに千歩分の保温折衷苗代を試験的にやったことにはじまる。

その後十年の今日では、保温折衷苗代は、全町三千農家のうち幾人かの水苗代を除いて一〇〇％といってもよい完全普及をなしたのである。むろん県下随一である。

一方早植えを奨励されて来た電熱温床苗代が最近頓に出して来たが、今年は、電熱温床苗代は下火となり、ビニール温床による陸苗代が急速に姿を現わした。来年は、この陸苗代が相当ひろまるのではないかと予想される。

陸苗代については、いろいろの疑問もあるようであるが、陸苗代十年の経験を基礎に自信をもって語る新屋小堀吉松氏（55）―元大家庄農業共済技術員―の談を聞いてみよう。

小堀氏は、終戦後四反八畝を耕作し、陸苗代と一本植一点張りでおし通し、幾多のにがい経験も経られたが、ここ三、四年は反当四石の実績をあげている。目下「ピルマ土壌がアルガリ性となり、ムレ苗ができてよくない。撒水は、三回ぐらいでもよい。本葉二、三枚出た籾乳期は、最も水の必要な時である。稲は、苗代、本田を問わず、あまり水を要しない。稲の一生には早生で反当総量六千石である。然るに当地方では三日間に八千石の水をあてている。

陸苗代で堂々入賞

陸苗代の進んでいるのは大川部落は八～九割の農家が陸苗代を試みている。昨年米作朝日町一競作会に反収四・三六五石で二位になった岡田新作さんは、ビニール温床苗を用い、しかも肥料を他の出品者の1/2しか用いなかったのである。

この原因は、陸苗代苗は硅酸分の含量が水苗代苗の倍近くもあって、病虫害に対する抵抗が強く、倒伏に耐えるのと、成熟期がおそくて実いりが良いという特質が効を奏したものと信じる。

以上のように小堀さんの意見には、型やぶりのような点もあるが、大いに参考になる、いな、学ぶべきものが多々あると思う。

――中田――

苗代の管理

覆いのポリエチレンは、ビニールよりも値が安くて丈夫で酸素、炭酸ガスが通り、その上長もちし、五、六年間は使えるから、温床紙よりも安上りである。なお、日光をよくよおし、苗の育ちがよく、高温障害をおこさない特質を持っている。

肥料は、酸性のものを用いる。大体立枯病は1.病菌によるもの　2.アルカリ性の障害で3.硫黄によるもの　4.根腐れによるもの　5.高温障害によるもの　以上の五つに分けられる。保温折衷苗代にもみがら灰をやることが毎年続くと、

小堀氏の農法

健苗の育成と管理のしやすいこと立枯防止には、ポリエチレン覆いの陸苗代が一番よい。こうして育てた苗は、堅くて短いが、根の発育は上々である。田植出して来たが、今年は、電出は五月十日以前に終り、一本植え多株方式で田んぼは水を控え、よく干して土壌に空気を与え、穂肥、特に実肥に重点をおく――これが小堀氏の農法である。

学校給食と牛乳

「児童、生徒の心身の健全な発達に資し、かつ、国民の食生活の改善に寄与するため」に「学校給食法」が制定されており、義務教育の学校では大方学校給食が実施されている。

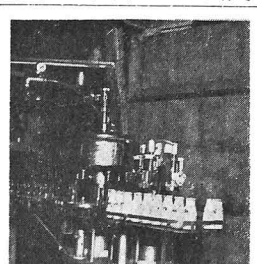
本町の小、中学校は、各校とも完全給食（パン、牛乳等の主食と副食給与）のできる設備が整っており、副食給与の上昇、黒雨中学のほか全部が完全給食を行っている。（法の定める給食規準は毎週五回以上）

全県下の状況を見ると、小学校三二、中学校一〇八のうち、完全給食一二六校、毎週五回以下の完全給食三六校、副食給食三三校合計一九五校が通年給食を行っている。これによると富山市、新湊市は最も良く氷見市は季節給食のみで最下位と入善町は大体県下の上位と見てよろしいが、有資格栄養士五名も任用しており、栄養士、調理士、炊事婦をとりまぜ、各校二名宛町職員としている所は県下でも稀であろう。

父兄の負担する給食費は一様でないが、学校給食法の基準にならって栄養価を取るよう献立されているので、一食十七、八円見当。一例をあげれば、パン六円五十銭、ミルク二円五十銭副食九円七十八銭といった一食分である。

本町の給食に特にプラスしているのは、入善酪農組合が牛乳を入れていることである。その上昨年十二月から今年三月まで学校給食の牛乳は一合当り四円の農林省の補助があり、二円五十戔負担で牛乳が飲めたことはありがたかった。（補助を受けたのは入善中、新屋、横山、青木、椚山の各小）

このように学校給食と深い関係のある入善酪農組合では、今春二百万円を増資して施設の改善をはかり、五石入貯乳槽（0下25度）パステライザー（80度で殺菌）二基、ホモゲナイザー（均質機）――牛乳の脂肪を1/20に分解して細粒となし乳児や病人にも適し、風味がよくなる）真空式瓶詰機等を備えて近代的なプラントとなした。殊に真空式瓶詰機は北陸三県にはごくにも入っていないという。


（真空式瓶詰機）

区長一覧表

昭和33年4月1日付委嘱

▲入善地区▼

神林　林　末雄
舟川　陽除

上田
第六　上田　初郎
第七　南保　音松
第八　藤井　友吉
◎四十物彌八　上田　長一
第九　岩場　清八
竹内彌三右エ門
第十　米沢　雅治
第十一　竹内　皎三
第十二　上野　幸一
第十三　神子沢
第十四　岩場清十郎
第十五　五十里
第十六　上田　庄吉
第十七　下飯野新
泉　栄松
田中清太郎
五十里浅吉
君島　義一
木谷　博吉
呉紡社宅　芦崎第一
五十里住宅連絡員　草島　利夫
田中　下飯野
五十里浅吉　園家　報徳
田中住宅会上　伊多　兵衛
広田次郎三　塚田　鉄次
井田　源七
井田六右エ門
井田栄次郎
井田吉次郎
広瀬　義孝
◎滝本　菊平
永原　数之

▲上原地区▼

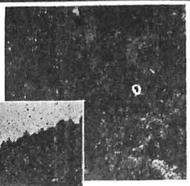
高森　清
籠瀬　敏雄
上野第一
〃第二
〃第三
〃第四
高畠　蛇沢　五郎八

上村
中南　藤原　信義
中北　松田　政雄
中林　政秀
松原　敏雄
笹原　薫
東町組　笹原　敏雄
東坪　第六　八郎
西坪　◎四十物彌八　第八　杉沢
西島　柴垣　敏夫
三島　高島　敏夫
目川　笹原　米作
本田　芳一
〃第三　第四　第五　第六　第七　第八　第九　第十　第十一　第十二　第十三　第十四　第十五　第十六　第十七　第十八　第十九　第二十　第二十一　第二十二　第二十三　第二十四　第二十五　第二十六　第二十七　第二十八　第二十九　第三十　第三十一　第三十二　第三十三　第三十四　第三十五　第三十六　第三十七　第三十八　第三十九　第四十　第四十一　第四十二　第四十三　第四十四　第四十五　第四十六　第四十七　第四十八　第四十九　第五十　第五十一　第五十二　第五十三　第五十四　第五十五　第五十六　第五十七　第五十八　第五十九　第六十　第六十一　第六十二　第六十三　第六十四　第六十五　第六十六　第六十七　第六十八　第六十九　第七十　第七十一　第七十二　第七十三　第七十四　第七十五　第七十六　第七十七　第七十八　第七十九　第八十　第八十一　第八十二　第八十三　第八十四　第八十五　第八十六　第八十七　第八十八　第八十九　第九十　第九十一　第九十二　第九十三　第九十四　第九十五　第九十六　第九十七　第九十八　第九十九　第百　第百一　第百二　第百三　第百四　第百五　第百六　第百七　第百八　第百九　第百十　第百十一　第百十二　第百十三　第百十四　第百十五　第百十六　第百十七　第百十八　第百十九　第百二十　第百二十一　第百二十二　第百二十三　第百二十四　第百二十五　第百二十六　第百二十七　第百二十八　第百二十九　第百三十　第百三十一　第百三十二　第百三十三　第百三十四　第百三十五　第百三十六　第百三十七　第百三十八　第百三十九　第百四十　第百四十一　第百四十二　第百四十三　第百四十四　第百四十五　第百四十六　第百四十七　第百四十八　第百四十九　第百五十　第百五十一　第百五十二　第百五十三　第百五十四　第百五十五　第百五十六　第百五十七　第百五十八　第百五十九　第百六十　第百六十一　第百六十二　第百六十三　第百六十四　第百六十五　第百六十六　第百六十七　第百六十八　第百六十九　第百七十　第百七十一　第百七十二　第百七十三　第百七十四　第百七十五　第百七十六　第百七十七　第百七十八　第百七十九　第百八十　第百八十一　第百八十二　第百八十三　第百八十四　第百八十五　第百八十六　第百八十七　第百八十八　第百八十九　第百九十　第百九十一　第百九十二　第百九十三　第百九十四　第百九十五　第百九十六　第百九十七　第百九十八　第百九十九　第二百　第二百一　第二百二　第二百三　第二百四　第二百五　第二百六　第二百七　第二百八　第二百九　第二百十　第二百十一　第二百十二　第二百十三　第二百十四　第二百十五　第二百十六　第二百十七　第二百十八　第二百十九　第二百二十　第二百二十一　第二百二十二　第二百二十三　第二百二十四　第二百二十五　第二百二十六　第二百二十七　第二百二十八　第二百二十九　第二百三十　第二百三十一　第二百三十二　第二百三十三　第二百三十四　第二百三十五　第二百三十六　第二百三十七　第二百三十八　第二百三十九　第二百四十　第二百四十一　第二百四十二　第二百四十三　第二百四十四　第二百四十五　第二百四十六　第二百四十七　第二百四十八　第二百四十九　第二百五十　第二百五十一　第二百五十二　第二百五十三　第二百五十四　第二百五十五　第二百五十六　第二百五十七　第二百五十八　第二百五十九　第二百六十　第二百六十一　第二百六十二　第二百六十三　第二百六十四　第二百六十五　第二百六十六　第二百六十七　第二百六十八　第二百六十九　第二百七十　第二百七十一　第二百七十二　第二百七十三　第二百七十四　第二百七十五　第二百七十六　第二百七十七　第二百七十八　第二百七十九　第二百八十　第二百八十一　第二百八十二　第二百八十三　第二百八十四　第二百八十五　第二百八十六　第二百八十七　第二百八十八　第二百八十九　第二百九十　第二百九十一　第二百九十二　第二百九十三　第二百九十四　第二百九十五　第二百九十六　第二百九十七　第二百九十八　第二百九十九　第三百　第三百一　第三百二　第三百三　第三百四　第三百五　第三百六　第三百七　第三百八　第三百九　第三百十　第三百十一　第三百十二　第三百十三　第三百十四　第三百十五　第三百十六　第三百十七　第三百十八　第三百十九　第三百二十　第三百二十一　第三百二十二　第三百二十三　第三百二十四　第三百二十五　第三百二十六　第三百二十七　第三百二十八　第三百二十九　第三百三十　第三百三十一　第三百三十二　第三百三十三　第三百三十四　第三百三十五　第三百三十六　第三百三十七　第三百三十八　第三百三十九　第三百四十　第三百四十一　第三百四十二　第三百四十三　第三百四十四　第三百四十五　第三百四十六　第三百四十七　第三百四十八　第三百四十九　第三百五十　第三百五十一　第三百五十二　第三百五十三　第三百五十四　第三百五十五　第三百五十六　第三百五十七　第三百五十八　第三百五十九　第三百六十　第三百六十一　第三百六十二　第三百六十三　第三百六十四　第三百六十五　第三百六十六　第三百六十七　第三百六十八　第三百六十九　第三百七十　第三百七十一　第三百七十二　第三百七十三　第三百七十四　第三百七十五　第三百七十六　第三百七十七　第三百七十八　第三百七十九　第三百八十　第三百八十一　第三百八十二　第三百八十三　第三百八十四　第三百八十五　第三百八十六　第三百八十七　第三百八十八　第三百八十九　第三百九十　第三百九十一　第三百九十二　第三百九十三　第三百九十四　第三百九十五　第三百九十六　第三百九十七　第三百九十八　第三百九十九　第四百　第四百一　第四百二　第四百三　第四百四　第四百五　第四百六　第四百七　第四百八　第四百九　第四百十　第四百十一　第四百十二　第四百十三　第四百十四　第四百十五　第四百十六　第四百十七　第四百十八　第四百十九　第四百二十　第四百二十一　第四百二十二　第四百二十三　第四百二十四　第四百二十五　第四百二十六　第四百二十七　第四百二十八　第四百二十九　第四百三十　第四百三十一　第四百三十二　第四百三十三　第四百三十四　第四百三十五　第四百三十六　第四百三十七　第四百三十八　第四百三十九　第四百四十　第四百四十一　第四百四十二　第四百四十三　第四百四十四　第四百四十五　第四百四十六　第四百四十七　第四百四十八　第四百四十九　第四百五十　第四百五十一　第四百五十二　第四百五十三　第四百五十四　第四百五十五　第四百五十六　第四百五十七　第四百五十八　第四百五十九　第四百六十　第四百六十一　第四百六十二　第四百六十三　第四百六十四　第四百六十五　第四百六十六　第四百六十七　第四百六十八　第四百六十九　第四百七十　第四百七十一　第四百七十二　第四百七十三　第四百七十四　第四百七十五　第四百七十六　第四百七十七　第四百七十八　第四百七十九　第四百八十　第四百八十一　第四百八十二　第四百八十三　第四百八十四　第四百八十五　第四百八十六　第四百八十七　第四百八十八　第四百八十九　第四百九十　第四百九十一　第四百九十二　第四百九十三　第四百九十四　第四百九十五　第四百九十六　第四百九十七　第四百九十八　第四百九十九　第五百　第五百一　第五百二　第五百三　第五百四　第五百五　第五百六　第五百七　第五百八　第五百九　第五百十　第五百十一　第五百十二　第五百十三　第五百十四　第五百十五　第五百十六　第五百十七　第五百十八　第五百十九　第五百二十　第五百二十一　第五百二十二　第五百二十三　第五百二十四　第五百二十五　第五百二十六　第五百二十七　第五百二十八　第五百二十九　第五百三十　第五百三十一　第五百三十二　第五百三十三　第五百三十四　第五百三十五　第五百三十六　第五百三十七　第五百三十八　第五百三十九　第五百四十　第五百四十一　第五百四十二　第五百四十三　第五百四十四　第五百四十五　第五百四十六　第五百四十七　第五百四十八　第五百四十九　第五百五十　第五百五十一　第五百五十二　第五百五十三　第五百五十四　第五百五十五　第五百五十六　第五百五十七　第五百五十八　第五百五十九　第五百六十　第五百六十一　第五百六十二　第五百六十三　第五百六十四　第五百六十五　第五百六十六　第五百六十七　第五百六十八　第五百六十九　第五百七十　第五百七十一　第五百七十二　第五百七十三　第五百七十四　第五百七十五　第五百七十六　第五百七十七　第五百七十八　第五百七十九　第五百八十　第五百八十一　第五百八十二　第五百八十三　第五百八十四　第五百八十五　第五百八十六　第五百八十七　第五百八十八　第五百八十九　第五百九十　第五百九十一　第五百九十二　第五百九十三　第五百九十四　第五百九十五　第五百九十六　第五百九十七　第五百九十八　第五百九十九　第六百　第六百一　第六百二　第六百三　第六百四　第六百五　第六百六　第六百七　第六百八　第六百九　第六百十　第六百十一　第六百十二　第六百十三　第六百十四　第六百十五　第六百十六　第六百十七　第六百十八　第六百十九　第六百二十　第六百二十一　第六百二十二　第六百二十三　第六百二十四　第六百二十五　第六百二十六　第六百二十七　第六百二十八　第六百二十九　第六百三十　第六百三十一　第六百三十二　第六百三十三　第六百三十四　第六百三十五　第六百三十六　第六百三十七　第六百三十八　第六百三十九　第六百四十　第六百四十一　第六百四十二　第六百四十三　第六百四十四　第六百四十五　第六百四十六　第六百四十七　第六百四十八　第六百四十九　第六百五十　第六百五十一　第六百五十二　第六百五十三　第六百五十四　第六百五十五　第六百五十六　第六百五十七　第六百五十八　第六百五十九　第六百六十　第六百六十一　第六百六十二　第六百六十三　第六百六十四　第六百六十五　第六百六十六　第六百六十七　第六百六十八　第六百六十九　第六百七十　第六百七十一　第六百七十二　第六百七十三　第六百七十四　第六百七十五　第六百七十六　第六百七十七　第六百七十八　第六百七十九　第六百八十　第六百八十一　第六百八十二　第六百八十三　第六百八十四　第六百八十五　第六百八十六　第六百八十七　第六百八十八　第六百八十九　第六百九十　第六百九十一　第六百九十二　第六百九十三　第六百九十四　第六百九十五　第六百九十六　第六百九十七　第六百九十八　第六百九十九　第七百　第七百一　第七百二　第七百三　第七百四　第七百五　第七百六　第七百七　第七百八　第七百九　第七百十　第七百十一　第七百十二　第七百十三　第七百十四　第七百十五　第七百十六　第七百十七　第七百十八　第七百十九　第七百二十　第七百二十一　第七百二十二　第七百二十三　第七百二十四　第七百二十五　第七百二十六　第七百二十七　第七百二十八　第七百二十九　第七百三十　第七百三十一　第七百三十二　第七百三十三　第七百三十四　第七百三十五　第七百三十六　第七百三十七　第七百三十八　第七百三十九　第七百四十　第七百四十一　第七百四十二　第七百四十三　第七百四十四　第七百四十五　第七百四十六　第七百四十七　第七百四十八　第七百四十九　第七百五十　第七百五十一　第七百五十二　第七百五十三　第七百五十四　第七百五十五　第七百五十六　第七百五十七　第七百五十八　第七百五十九　第七百六十　第七百六十一　第七百六十二　第七百六十三　第七百六十四　第七百六十五　第七百六十六　第七百六十七　第七百六十八　第七百六十九　第七百七十　第七百七十一　第七百七十二　第七百七十三　第七百七十四　第七百七十五　第七百七十六　第七百七十七　第七百七十八　第七百七十九　第七百八十　第七百八十一　第七百八十二　第七百八十三　第七百八十四　第七百八十五　第七百八十六　第七百八十七　第七百八十八　第七百八十九　第七百九十　第七百九十一　第七百九十二　第七百九十三　第七百九十四　第七百九十五　第七百九十六　第七百九十七　第七百九十八　第七百九十九　第八百　第八百一　第八百二　第八百三　第八百四　第八百五　第八百六　第八百七　第八百八　第八百九　第八百十　第八百十一　第八百十二　第八百十三　第八百十四　第八百十五　第八百十六　第八百十七　第八百十八　第八百十九　第八百二十　第八百二十一　第八百二十二　第八百二十三　第八百二十四　第八百二十五　第八百二十六　第八百二十七　第八百二十八　第八百二十九　第八百三十　第八百三十一　第八百三十二　第八百三十三　第八百三十四　第八百三十五　第八百三十六　第八百三十七　第八百三十八　第八百三十九　第八百四十　第八百四十一　第八百四十二　第八百四十三　第八百四十四　第八百四十五　第八百四十六　第八百四十七　第八百四十八　第八百四十九　第八百五十　第八百五十一　第八百五十二　第八百五十三　第八百五十四　第八百五十五　第八百五十六　第八百五十七　第八百五十八　第八百五十九　第八百六十　第八百六十一　第八百六十二　第八百六十三　第八百六十四　第八百六十五　第八百六十六　第八百六十七　第八百六十八　第八百六十九　第八百七十　第八百七十一　第八百七十二　第八百七十三　第八百七十四　第八百七十五　第八百七十六　第八百七十七　第八百七十八　第八百七十九　第八百八十　第八百八十一　第八百八十二　第八百八十三　第八百八十四　第八百八十五　第八百八十六　第八百八十七　第八百八十八　第八百八十九　第八百九十　第八百九十一　第八百九十二　第八百九十三　第八百九十四　第八百九十五　第八百九十六　第八百九十七　第八百九十八　第八百九十九　第九百　第九百一　第九百二　第九百三　第九百四　第九百五　第九百六　第九百七　第九百八　第九百九　第九百十　第九百十一　第九百十二　第九百十三　第九百十四　第九百十五　第九百十六　第九百十七　第九百十八　第九百十九　第九百二十　第九百二十一　第九百二十二　第九百二十三　第九百二十四　第九百二十五　第九百二十六　第九百二十七　第九百二十八　第九百二十九　第九百三十　第九百三十一　第九百三十二　第九百三十三　第九百三十四　第九百三十五　第九百三十六　第九百三十七　第九百三十八　第九百三十九　第九百四十　第九百四十一　第九百四十二　第九百四十三　第九百四十四　第九百四十五　第九百四十六　第九百四十七　第九百四十八　第九百四十九　第九百五十　第九百五十一　第九百五十二　第九百五十三　第九百五十四　第九百五十五　第九百五十六　第九百五十七　第九百五十八　第九百五十九　第九百六十　第九百六十一　第九百六十二　第九百六十三　第九百六十四　第九百六十五　第九百六十六　第九百六十七　第九百六十八　第九百六十九　第九百七十　第九百七十一　第九百七十二　第九百七十三　第九百七十四　第九百七十五　第九百七十六　第九百七十七　第九百七十八　第九百七十九　第九百八十　第九百八十一　第九百八十二　第九百八十三　第九百八十四　第九百八十五　第九百八十六　第九百八十七　第九百八十八　第九百八十九　第九百九十　第九百九十一　第九百九十二　第九百九十三　第九百九十四　第九百九十五　第九百九十六　第九百九十七　第九百九十八　第九百九十九　第一千　第一千一　第一千二　第一千三　第一千四　第一千五　第一千六　第一千七　第一千八　第一千九　第一千十　第一千十一　第一千十二　第一千十三　第一千十四　第一千十五　第一千十六　第一千十七　第一千十八　第一千十九　第一千二十　第一千二十一　第一千二十二　第一千二十三　第一千二十四　第一千二十五　第一千二十六　第一千二十七　第一千二十八　第一千二十九　第一千三十　第一千三十一　第一千三十二　第一千三十三　第一千三十四　第一千三十五　第一千三十六　第一千三十七　第一千三十八　第一千三十九　第一千四十　第一千四十一　第一千四十二　第一千四十三　第一千四十四　第一千四十五　第一千四十六　第一千四十七　第一千四十八　第一千四十九　第一千五十　第一千五十一　第一千五十二　第一千五十三　第一千五十四　第一千五十五　第一千五十六　第一千五十七　第一千五十八　第一千五十九　第一千六十　第一千六十一　第一千六十二　第一千六十三　第一千六十四　第一千六十五　第一千六十六　第一千六十七　第一千六十八　第一千六十九　第一千七十　第一千七十一　第一千七十二　第一千七十三　第一千七十四　第一千七十五　第一千七十六　第一千七十七　第一千七十八　第一千七十九　第一千八十　第一千八十一　第一千八十二　第一千八十三　第一千八十四　第一千八十五　第一千八十六　第一千八十七　第一千八十八　第一千八十九　第一千九十　第一千九十一　第一千九十二　第一千九十三　第一千九十四　第一千九十五　第一千九十六　第一千九十七　第一千九十八　第一千九十九　第二千　第二千一　第二千二　第二千三　第二千四　第二千五　第二千六　第二千七　第二千八　第二千九　第二千十　第二千十一　第二千十二　第二千十三　第二千十四　第二千十五　第二千十六　第二千十七　第二千十八　第二千十九　第二千二十　第二千二十一　第二千二十二　第二千二十三　第二千二十四　第二千二十五　第二千二十六　第二千二十七　第二千二十八　第二千二十九　第二千三十　第二千三十一　第二千三十二　第二千三十三　第二千三十四　第二千三十五　第二千三十六　第二千三十七　第二千三十八　第二千三十九　第二千四十　第二千四十一　第二千四十二　第二千四十三　第二千四十四　第二千四十五　第二千四十六　第二千四十七　第二千四十八　第二千四十九　第二千五十　第二千五十一　第二千五十二　第二千五十三　第二千五十四　第二千五十五　第二千五十六　第二千五十七　第二千五十八　第二千五十九　第二千六十　第二千六十一　第二千六十二　第二千六十三　第二千六十四　第二千六十五　第二千六十六　第二千六十七　第二千六十八　第二千六十九　第二千七十　第二千七十一　第二千七十二　第二千七十三　第二千七十四　第二千七十五　第二千七十六　第二千七十七　第二千七十八　第二千七十九　第二千八十　第二千八十一　第二千八十二　第二千八十三　第二千八十四　第二千八十五　第二千八十六　第二千八十七　第二千八十八　第二千八十九　第二千九十　第二千九十一　第二千九十二　第二千九十三　第二千九十四　第二千九十五　第二千九十六　第二千九十七　第二千九十八　第二千九十九　第三千　第三千一　第三千二　第三千三　第三千四　第三千五　第三千六　第三千七　第三千八　第三千九　第三千十　第三千十一　第三千十二　第三千十三　第三千十四　第三千十五　第三千十六　第三千十七　第三千十八　第三千十九　第三千二十　第三千二十一　第三千二十二　第三千二十三　第三千二十四　第三千二十五　第三千二十六　第三千二十七　第三千二十八　第三千二十九　第三千三十　第三千三十一　第三千三十二　第三千三十三　第三千三十四　第三千三十五　第三千三十六　第三千三十七　第三千三十八　第三千三十九　第三千四十　第三千四十一　第三千四十二　第三千四十三　第三千四十四　第三千四十五　第三千四十六　第三千四十七　第三千四十八　第三千四十九　第三千五十　第三千五十一　第三千五十二　第三千五十三　第三千五十四　第三千五十五　第三千五十六　第三千五十七　第三千五十八　第三千五十九　第三千六十　第三千六十一　第三千六十二　第三千六十三　第三千六十四　第三千六十五　第三千六十六　第三千六十七　第三千六十八　第三千六十九　第三千七十　第三千七十一　第三千七十二　第三千七十三　第三千七十四　第三千七十五　第三千七十六　第三千七十七　第三千七十八　第三千七十九　第三千八十　第三千八十一　第三千八十二　第三千八十三　第三千八十四　第三千八十五　第三千八十六　第三千八十七　第三千八十八　第三千八十九　第三千九十　第三千九十一　第三千九十二　第三千九十三　第三千九十四　第三千九十五　第三千九十六　第三千九十七　第三千九十八　第三千九十九　第四千　第四千一　第四千二　第四千三　第四千四　第四千五　第四千六　第四千七　第四千八　第四千九　第四千十　第四千十一　第四千十二　第四千十三　第四千十四　第四千十五　第四千十六　第四千十七　第四千十八　第四千十九　第四千二十　第四千二十一　第四千二十二　第四千二十三　第四千二十四　第四千二十五　第四千二十六　第四千二十七　第四千二十八　第四千二十九　第四千三十　第四千三十一　第四千三十二　第四千三十三　第四千三十四　第四千三十五　第四千三十六　第四千三十七　第四千三十八　第四千三十九　第四千四十　第四千四十一　第四千四十二　第四千四十三　第四千四十四　第四千四十五　第四千四十六　第四千四十七　第四千四十八　第四千四十九　第四千五十　第四千五十一　第四千五十二　第四千五十三　第四千五十四　第四千五十五　第四千五十六　第四千五十七　第四千五十八　第四千五十九　第四千六十　第四千六十一　第四千六十二　第四千六十三　第四千六十四　第四千六十五　第四千六十六　第四千六十七　第四千六十八　第四千六十九　第四千七十　第四千七十一　第四千七十二　第四千七十三　第四千七十四　第四千七十五　第四千七十六　第四千七十七　第四千七十八　第四千七十九　第四千八十　第四千八十一　第四千八十二　第四千八十三　第四千八十四　第四千八十五　第四千八十六　第四千八十七　第四千八十八　第四千八十九　第四千九十　第四千九十一　第四千九十二　第四千九十三　第四千九十四　第四千九十五　第四千九十六　第四千九十七　第四千九十八　第四千九十九　第五千　第五千一　第五千二　第五千三　第五千四　第五千五　第五千六　第五千七　第五千八　第五千九　第五千十　第五千十一　第五千十二　第五千十三　第五千十四　第五千十五　第五千十六　第五千十七　第五千十八　第五千十九　第五千二十　第五千二十一　第五千二十二　第五千二十三　第五千二十四　第五千二十五　第五千二十六　第五千二十七　第五千二十八　第五千二十九　第五千三十　第五千三十一　第五千三十二　第五千三十三　第五千三十四　第五千三十五　第五千三十六　第五千三十七　第五千三十八　第五千三十九　第五千四十　第五千四十一　第五千四十二　第五千四十三　第五千四十四　第五千四十五　第五千四十六　第五千四十七　第五千四十八　第五千四十九　第五千五十　第五千五十一　第五千五十二　第五千五十三　第五千五十四　第五千五十五　第五千五十六　第五千五十七　第五千五十八　第五千五十九　第五千六十　第五千六十一　第五千六十二　第五千六十三　第五千六十四　第五千六十五　第五千六十六　第五千六十七　第五千六十八　第五千六十九　第五千七十　第五千七十一　第五千七十二　第五千七十三　第五千七十四　第五千七十五　第五千七十六　第五千七十七　第五千七十八　第五千七十九　第五千八十　第五千八十一　第五千八十二　第五千八十三　第五千八十四　第五千八十五　第五千八十六　第五千八十七　第五千八十八　第五千八十九　第五千九十　第五千九十一　第五千九十二　第五千九十三　第五千九十四　第五千九十五　第五千九十六　第五千九十七　第五千九十八　第五千九十九　第六千　第六千一　第六千二　第六千三　第六千四　第六千五　第六千六　第六千七　第六千八　第六千九　第六千十　第六千十一　第六千十二　第六千十三　第六千十四　第六千十五　第六千十六　第六千十七　第六千十八　第六千十九　第六千二十　第六千二十一　第六千二十二　第六千二十三　第六千二十四　第六千二十五　第六千二十六　第六千二十七　第六千二十八　第六千二十九　第六千三十　第六千三十一　第六千三十二　第六千三十三　第六千三十四　第六千三十五　第六千三十六　第六千三十七　第六千三十八　第六千三十九　第六千四十　第六千四十一　第六千四十二　第六千四十三　第六千四十四　第六千四十五　第六千四十六　第六千四十七　第六千四十八　第六千四十九　第六千五十　第六千五十一　第六千五十二　第六千五十三　第六千五十四　第六千五十五　第六千五十六　第六千五十七　第六千五十八　第六千五十九　第六千六十　第六千六十一　第六千六十二　第六千六十三　第六千六十四　第六千六十五　第六千六十六　第六千六十七　第六千六十八　第六千六十九　第六千七十　第六千七十一　第六千七十二　第六千七十三　第六千七十四　第六千七十五　第六千七十六　第六千七十七　第六千七十八　第六千七十九　第六千八十　第六千八十一　第六千八十二　第六千八十三　第六千八十四　第六千八十五　第六千八十六　第六千八十七　第六千八十八　第六千八十九　第六千九十　第六千九十一　第六千九十二　第六千九十三　第六千九十四　第六千九十五　第六千九十六　第六千九十七　第六千九十八　第六千九十九　第七千　第七千一　第七千二　第七千三　第七千四　第七千五　第七千六　第七千七　第七千八　第七千九　第七千十　第七千十一　第七千十二　第七千十三　第七千十四　第七千十五　第七千十六　第七千十七　第七千十八　第七千十九　第七千二十　第七千二十一　第七千二十二　第七千二十三　第七千二十四　第七千二十五　第七千二十六　第七千二十七　第七千二十八　第七千二十九　第七千三十　第七千三十一　第七千三十二　第七千三十三　第七千三十四　第七千三十五　第七千三十六　第七千三十七　第七千三十八　第七千三十九　第七千四十　第七千四十一　第七千四十二　第七千四十三　第七千四十四　第七千四十五　第七千四十六　第七千四十七　第七千四十八　第七千四十九　第七千五十　第七千五十一　第七千五十二　第七千五十三　第七千五十四　第七千五十五　第七千五十六　第七千五十七　第七千五十八　第七千五十九　第七千六十　第七千六十一　第七千六十二　第七千六十三　第七千六十四　第七千六十五　第七千六十六　第七千六十七　第七千六十八　第七千六十九　第七千七十　第七千七十一　第七千七十二　第七千七十三　第七千七十四　第七千七十五　第七千七十六　第七千七十七　第七千七十八　第七千七十九　第七千八十　第七千八十一　第七千八十二　第七千八十三　第七千八十四　第七千八十五　第七千八十六　第七千八十七　第七千八十八　第七千八十九　第七千九十　第七千九十一　第七千九十二　第七千九十三　第七千九十四　第七千九十五　第七千九十六　第七千九十七　第七千九十八　第七千九十九　第八千　第八千一　第八千二　第八千三　第八千四　第八千五　第八千六　第八千七　第八千八　第八千九　第八千十　第八千十一　第八千十二　第八千十三　第八千十四　第八千十五　第八千十六　第八千十七　第八千十八　第八千十九　第八千二十　第八千二十一　第八千二十二　第八千二十三　第八千二十四　第八千二十五　第八千二十六　第八千二十七　第八千二十八　第八千二十九　第八千三十　第八千三十一　第八千三十二　第八千三十三　第八千三十四　第八千三十五　第八千三十六　第八千三十七　第八千三十八　第八千三十九　第八千四十　第八千四十一　第八千四十二　第八千四十三　第八千四十四　第八千四十五　第八千四十六　第八千四十七　第八千四十八　第八千四十九　第八千五十　第八千五十一　第八千五十二　第八千五十三　第八千五十四　第八千五十五　第八千五十六　第八千五十七　第八千五十八　第八千五十九　第八千六十　第八千六十一　第八千六十二　第八千六十三　第八千六十四　第八千六十五　第八千六十六　第八千六十七　第八千六十八　第八千六十九　第八千七十　第八千七十一　第八千七十二　第八千七十三　第八千七十四　第八千七十五　第八千七十六　第八千七十七　第八千七十八　第八千七十九　第八千八十　第八千八十一　第八千八十二　第八千八十三　第八千八十四　第八千八十五　第八千八十六　第八千八十七　第八千八十八　第八千八十九　第八千九十　第八千九十一　第八千九十二　第八千九十三　第八千九十四　第八千九十五　第八千九十六　第八千九十七　第八千九十八　第八千九十九　第九千　第九千一　第九千二　第九千三　第九千四　第九千五　第九千六　第九千七　第九千八　第九千九　第九千十　第九千十一　第九千十二　第九千十三　第九千十四　第九千十五　第九千十六　第九千十七　第九千十八　第九千十九　第九千二十　第九千二十一　第九千二十二　第九千二十三　第九千二十四　第九千二十五　第九千二十六　第九千二十七　第九千二十八　第九千二十九　第九千三十　第九千三十一　第九千三十二　第九千三十三　第九千三十四　第九千三十五　第九千三十六　第九千三十七　第九千三十八　第九千三十九　第九千四十　第九千四十一　第九千四十二　第九千四十三　第九千四十四　第九千四十五　第九千四十六　第九千四十七　第九千四十八　第九千四十九　第九千五十　第九千五十一　第九千五十二　第九千五十三　第九千五十四　第九千五十五　第九千五十六　第九千五十七　第九千五十八　第九千五十九　第九千六十　第九千六十一　第九千六十二　第九千六十三　第九千六十四　第九千六十五　第九千六十六　第九千六十七　第九千六十八　第九千六十九　第九千七十　第九千七十一　第九千七十二　第九千七十三　第九千七十四　第九千七十五　第九千七十六　第九千七十七　第九千七十八　第九千七十九　第九千八十　第九千八十一　第九千八十二　第九千八十三　第九千八十四　第九千八十五　第九千八十六　第九千八十七　第九千八十八　第九千八十九　第九千九十　第九千九十一　第九千九十二　第九千九十三　第九千九十四　第九千九十五　第九千九十六　第九千九十七　第九千九十八　第九千九十九　第一万　第一万一　第一万二　第一万三　第一万四　第一万五　第一万六　第一万七　第一万八　第一万九　第一万十　第一万十一　第一万十二　第一万十三　第一万十四　第一万十五　第一万十六　第一万十七　第一万十八　第一万十九　第一万二十　第一万二十一　第一万二十二　第一万二十三　第一万二十四　第一万二十五　第一万二十六　第一万二十七　第一万二十八　第一万二十九　第一万三十　第一万三十一　第一万三十二　第一万三十三　第一万三十四　第一万三十五　第一万三十六　第一万三十七　第一万三十八　第一万三十九　第一万四十　第一万四十一　第一万四十二　第一万四十三　第一万四十四　第一万四十五　第一万四十六　第一万四十七　第一万四十八　第一万四十九　第一万五十　第一万五十一　第一万五十二　第一万五十三　第一万五十四　第一万五十五　第一万五十六　第一万五十七　第一万五十八　第一万五十九　第一万六十　第一万六十一　第一万六十二　第一万六十三　第一万六十四　第一万六十五　第一万六十六　第一万六十七　第一万六十八　第一万六十九　第一万七十　第一万七十一　第一万七十二　第一万七十三　第一万七十四　第一万七十五　第一万七十六　第一万七十七　第一万七十八　第一万七十九　第一万八十　第一万八十一　第一万八十二　第一万八十三　第一万八十四　第一万八十五　第一万八十六　第一万八十七　第一万八十八　第一万八十九　第一万九十　第一万九十一　第一万九十二　第一万九十三　第一万九十四　第一万九十五　第一万九十六　第一万九十七　第一万九十八　第一万九十九　第二万　第二万一　第二万二　第二万三　第二万四　第二万五　第二万六　第二万七　第二万八　第二万九　第二万十　第二万十一　第二万十二　第二万十三　第二万十四　第二万十五　第二万十六　第二万

お勧めしたいハイキングコース（その二）

◇入善名物の「沢」

入善町の鉄道の北、海岸まで、ウツソウとした杉森が、数条帯状に茂っています。「サワ」といっています。〃ナーンダ、沢か〃と誰も注意を引きませんが、名所旧跡の少い入善町ですが、これだけは全国で類のない名物の一つです。



沢は、昔の黒部川の主流のあとの水の湧き出る低地に特殊な植物主に杉のジャングルをなしている処で、湧出林といい、地理学上、植物学上珍しい存在です。沢の杉は、根本から数本の幹が分れ出ているので、普通の杉とちょっと変っているのに気づくでしょう。これは、立山杉の系統を引いた別の品種だということです。沢の植物には、いわがねそう・いわがねぜんまい・おおきしのおしだ・うらじろなど、普通路ばたに見かけない暖帯性の「しだ」が生えています。植木屋のほしがる「おおすぎごけ」も密生しています。

◇西廻りコース

入善→木の根（沢）→園家山→芦崎→板屋（鱒・わさび）→黒部大橋→青木（六本松）→帰路

花月公園を出発し、下黒部橋を目ざす浜街道を西進すれば、ほどなく目川・木の根の沢にかかります。沢の成因や形や植物に目を注ぐとともに、沢がどんな役目を果しているかを考えてみるのもムダではないでしょう。

園家山は、標高一七、七メートルの砂丘です。美しい松林があるので、生徒の遠足地として知られています。むかし、園家千軒といって、繁華な港町だったそうですが、大津波にさらわれてしまい、そのあとにこの砂丘が出来たのだという話です。これについて悲しい伝説があるのですが、後にふれる六本松の史実とともに後日入善町風土記であつかわれますから、省略します。

園家山は、春は松露狩やぼうふう摘みに、夏はキャンプや釣によい所です。殊にキャンプ地としては、海岸では県下にこれ以上のところは無いのです。やがて西入善駅が出来れば立派な観光地として世に知られることになるでしょう。

芦崎ではセメント瓦の工場を見、黒部川口に近くエキスカベーターの作業に舌を巻き、黒部の堤防上の道を辿ること約一キロで板屋の養魚場に着きます。にじ鱒の養殖地や、わさび栽培を参観し、経営者から成功するまでの苦心談を聞けたら幸いというものです。

板屋から約二キロで上飯野に出、黒部大橋を見て、バスを拾って帰るのもよく頑張って歩くとしたら、六本松の信蔵坊の遺跡を見ることが出来ます。

上　養魚場

下　わさび畑

きれいに落葉が掃かれており
客待ち顔な園家の松林

こうして痴漢から身を守りましょう

だんだん気候がよくなりますと、性犯罪が多くなって来ます。性犯罪の形はいろいろありますが、なんといっても暗い夜道の婦女のひとり歩きや人通りのない田畑での作業中や、留守宅などの婦女子をねらっての事件か多いようです。

これらの痴漢は、ちょっとした婦女子の心の隙に乗じて、せつな的に襲いかかり、あるいは言葉巧みに目的地に誘い出すのです。

人にも言えない恥ずかしめを受けたり、不幸な目にあわないようお互常日ごろから服装や行動について充分注意し、被害を防ぎたいものです。

〈屋外では〉

もっとも被害の多いのは午後六時ごろから十一時ごろまでの時刻で、女のひとり歩きやアベック等がよく襲われています。

つい先ごろ、新聞紙上をにぎわした「通り魔」は、昨年七月から本年一月までのわずか半年間に強盗・暴行などの兇悪犯四〇件も犯して捕えられた犯人が取調べにあたりこんな述懐をしています。

○大体夜の六時か七時ごろひとり歩きの服装のパリッとした人をねろう。

○午後六時、七時ごろは通行人もかなりいるが襲うとき近くに人がいないときを見はかろう。

○女は襲われれば、小声で嘆願しても大きな声は、めったに出さない。「女の悲鳴は猛獣も避ける」といいます。無言で抵抗するのは愚の骨頂です。

こんなことばのうちにも私たちは教えられるものが多いと思いますが、勤めの関係で夜遅くなるときは、家庭に連絡して迎えにきてもろうとか、映画やお祭りで夜遅くなる場合は、最初から二人以上連れだって出掛ける心がけが必要です。

やむを得ずひとりで夜外出するときは、廻り道になっても人通りの多い明るい道を通ることです。

もし、怪しい者がうしろからついて来るように感じたら、すぐ近くの駐在所や民家へかけ込んで助けを求めましょう。

〈映画館などでは〉

夜の映画館や屋外集会場満員電車やバスなどの暗いのにつけ込んでなれなれしく話しかけてきたり、混雑にまぎれてことさらに身を寄せてくるようなときは、急いで場所をかえるとか、遠慮したり恥ずかしがらず係員や周囲の人に話して、警察に連絡してもらいたいものです。

〈屋内では〉

留守中に見知らぬ人がたずねてきた場合などは、不意に飛びかかれないような間隔をおき、応待が通行人から見えるように常に気を配るなど隙を与えないようにしましょう。

これから農繁期で、昼寝しているときや、入浴中など外からのぞき見られないよう、また、就寝するときは、外から家の中の様子が見えないよう電燈を消すとか、雨戸やカーテンを閉めるなどして痴漢の毒芽から身を守りおしよう。

計量週間　あと半年でメートル法

六月七日は計量記念日、そして、一日から七日までは計量週間です。

元來、日本人は「カン」で物ごとをしますが、「カン」に合せて計量的、合理的な生活をしましょう。

メートル法の切り替えまであと半年です。できることならメートル法の計量器を用意して、今のうちから使いなれておきましょう。

なお、メートル法の記号も早くおぼえましょう。

m メートル	km キロメートル	cm センチメートル	mm ミリメートル
m² 平方メートル	m³ 立方メートル	g グラム	kg キログラム
t トン	l リットル	kl キロリットル	dl デシリットル

ねずみ退治に努めましょう

ねずみの駆除は、ねずみから食べ物や住み家をうばって、ねずみの住めないようにすることが最も大切なことです。

「めっそ」などの殺そ剤を使う要領は、ねずみの好物の小麦粉やそば粉などで毒だんごを作り、一日おきぐらいにねずみの空腹になったときをねらってやることです。毒だんごは、小指の頭ぐらいにし、耳たぶくらいの堅さが適当です。

ねずみの住み家や食べ物をなくするのに次のようなことを励行しましょう。

(1)食品をねずみの入らぬ戸棚にしまうこと

(2)米びつなどは金属製のふたをすること

(3)調理場から出るゴミを金属製のふたのある箱に入れること

(4)部屋の中の掃除と整とんをよくすること

(5)ねずみの出入口は、金網でふさぐこと

とにかくねずみ退治は、ねずみと知恵くらべ、根気くらべであることと、隣近所一せいに駆除することが大切だと思って下さい。

入善図書館　新着図書

新年度になってから新刊書が大量に入りました。どしどし御利用下さい。

書名	著者名
日本温泉事典	塩井　武
命なりけり	福原麟太郎
赤ちゃんの心理	波多野勤子
私の歩んできた道	矢内原忠雄
わが青春放浪記	大宅壮一
働くこと楽しむこと	石坂泰三
智慧の凋落	小松　元
愛は死をみつめて	高橋正雄
新しい経営者新しい労働者	中山伊知郎
本の中に生きる女たち	堀　秀彦
悪に関する七十二章	直下信一
若い女性のための三十二章	田中澄江
日本歴史入門	松本新八郎
若い人達に與える財	
界人の意見	三宅晴輝
封建性	江口　渙
スラム	磯村英一
農民運動の歴史	山崎春成
売れる言葉買わせる言葉	新保民八
動物の知恵	朝日　稔
福龍丸	八木　勇
新せんい読本	加治木義博
酒のさなか	林　逸郎
演技しない主役たち	羽仁　進
アルピニズムの基礎	袋　一平
養鶏百科	飯島敏三郎
日本農業の基礎知識	大内　力
私のインタヴュー	高峰秀子
開かれぬ門	小山いと子
虹の橋	高見　順
焔の中	吉行淳之介
霧の中の花火	円地文子
赤い空	眞鍋呉夫
蒼氷	新田次郎
剣は知っていた	柴田錬三郎
黒い花粉	舟橋聖一
金戈を歌う	火野葦平
月光のドミナ	遠藤周作
ああ江田島	菊村　到
夫婦百景	獅子文六
花ひらく森	林　房雄
眼の壁	松本清張
点と線	〃
天下泰平	源氏鶏太
広場で楽隊を鳴らそう	服部　正
ある日本人	中野清見
髑髏島秘帳	大隈三好
紅顔夜叉	山手樹一郎

八月には落成　上青中増築工事

上青中学校校舎二階建延六十六坪（木造）増築の工事請負入札は五月九日指名七業者によって行われた。開札の結果黒部市共和土木（社長飛島いく氏）が二百二十万円で落札した。

五月十三日起工式を行ったが完工期日は八月十日である。

激戦の今昔

33年5月総選挙第一区有効投票

郡市別	投票総数	三鍋義三	内藤隆	鍛治良作	佐伯宗義	松岡松平	中川力松
上新川郡	18,615	4,643	6,951	485	3,817	1,775	384
中新川郡	34,219	4,789	2,237	2,254	12,468	11,698	657
下新川郡	29,982	6,196	2,186	15,399	3,050	2,373	465
婦負郡	40,063	14,149	12,801	1,724	6,780	3,463	956
富山市	81,646	22,571	32,658	3,900	13,745	6,162	2,258
魚津市	21,970	4,566	1,874	12,291	1,561	1,352	233
滑川市	14,068	3,167	1,361	3,583	3,695	2,027	175
黒部市	15,018	2,219	897	9,193	1,691	785	187
計	255,131	62,300	60,965	48,829	46,807	27,625	5,495

（郡内内訳）

	投票総数	三鍋義三	内藤隆	鍛治良作	佐伯宗義	松岡松平	中川力松
宇奈月町	4,594	965	150	2,014	1,150	227	67
舟見町	1,158	191	77	635	143	82	27
入善町	13,056	2,686	385	8,090	743	809	281
朝日町	11,174	2,354	1,574	4,660	1,014	1,255	270
計	29.982	6,196	2,186	15,399	3,050	2,373	645

30年2月総選挙第一区有効投票

郡市別	投票総数	三鍋義三	松岡松平	佐伯宗義	内藤隆	鍛治良作	寺崎新一郎	五十嵐隆
上新川郡	19,227	4.130	3,530	3,331	5.410	403	262	1,518
中新川郡	36,231	4.610	14,789	10,782	2,641	2,389	330	461
下新川郡	30,884	6,354	5,561	4,148	1,996	10.854	1.255	533
婦負郡	42,584	13,648	8,141	7,824	10,153	1,333	545	672
富山市	75,939	21,419	14,828	14.108	19,447	2,586	1,275	1,862
魚津市	23,182	3,822	2.153	2,077	1,473	8.342	3,065	123
滑川市	14,495	2,756	3,521	3,073	1.570	3.029	376	103
黒部市	15,581	2,063	1,629	2,370	1,905	6,905	543	120
計	258.125	58,806	54,152	48,213	44,596	35,841	9,651	5,392

（郡内内訳）

	投票総数	三鍋義三	松岡松平	佐伯宗義	内藤隆	鍛治良作	寺崎新一郎	五十嵐隆
宇奈月	4,502	856	606	1,251	138	1,378	239	34
舟見	1,150	160	153	226	83	474	46	8
入善	13,711	3,400	2,334	1,140	781	5.312	549	195
朝日	11,338	1,938	2,468	1,531	994	3,690	421	296
計	30,701	6,354	5.561	4,148	1.916	10.854	1,255	533